

早稲田大学・美濃加茂市 文化交流事業 坪内逍遙大賞受賞記念展

白石加代子と「百物語」の世界

●会 期 2022. 1. 8 日 - 2. 13 日

●会 場 展示ホール ●観覧料 無料

観覧無料

第 18 回逍遙大賞受賞者・白石加代子の代表作「百物語」に焦点を当て、舞台写真や取り上げられた文学作品を紹介します。



白石加代子「百物語」シリーズ 57 話 第十八夜 三遊亭円朝「真景累ヶ淵」

早稲田大学・美濃加茂市文化交流事業 学生演劇

早稲田大学 Seiren Musical Project

「シャッターチャンス」

オンライン配信中!!

早稲田大学小野記念講堂で上演した作品を YouTube にて配信中です。

主人公の「かすみ」が人との出会いを通して「頑張ることの意味」を見つけます。舞台の臨場感とドラマが融合した子どもから大人まで楽しめるミュージカル作品です。ぜひご覧ください。

こちらの QR コードで
ご覧いただけます

SHOP NEWS ミュージアムグッズの紹介

商品価格はすべて税込みです。

文化の森に新しいオリジナルミュージアム
グッズが 2 種類仲間入りしました♪木材の
繊維から作られたクリップです。

デザインは やなぎざわ みか さんです!

■ご利用のご案内

開館時間 9:00～17:00

(ただし、施設の貸出し利用は8:30～22:00まで)

休 館 日 日曜日

(ただし、祝日の場合は開館し、直後の平日休館)

年末年始

【1・2・3 月の休館日】

12月29日～1月3日、11日、17日、24日、31日

2月7日、14日、21日、28日

3月7日、14日、22日、28日

■交通

●鉄 道 JR名古屋から美濃太田駅まで
東海道本線・高山本線経由、
特急「ひだ」で約40分
美濃太田駅北口から徒歩約17分

●自動車 東海環状自動車道美濃加茂ICから約5分

●あい愛バス JR美濃太田駅北口より乗車、「文化の森」下車
(乗車時間約10分)
※時刻表など詳しくは、あい愛バスのホーム
ページをご覧ください。
<http://aiiai-bus.com/>

行き	文化の森着	帰り	文化の森発
美濃太田駅北口発	9:08	9:59	10:10
	10:48	11:39	11:50
	13:33	14:24	14:35
	15:15	16:06	16:17

運賃 / 一般 100円 中学生以下無料
2022 年 1 月 3 日より時刻改定します。〒505-0004
岐阜県美濃加茂市
蜂屋町上蜂屋3299-1
TEL : 0574-28-1110
FAX : 0574-28-1104

Webでも楽しもう! 文化の森

【ふらりと展示室】

美濃加茂市民ミュージアムにある常設展示室をWEB上で見られます。気軽に「ふらり」と立ち寄り、気の向くままにページを開いてみてください。そして、何かここで感じたことがあれば、それを確かめるにこの展示室や現地を訪れてみてはいかがでしょうか...

文化の森HP <http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>
→ふらりと展示室

【美濃加茂事典】

美濃加茂地域を中心とすることがらを事典形式で解説。

文化の森HP
<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>
→データベース→美濃加茂事典みのかも文化の森
美濃加茂市民ミュージアム
MINOKAMO CITY MUSEUM<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

...想いを巡らし、はじまる森...

MUSEUM NEWS

みのかも文化の森
vol.104

2022年1月5日発行

森が大切にしているもの

05

全国的にも数が減り、加茂地区でも絶滅危惧Ⅱ類の水生昆虫。この 2 匹は市内の小学生が「数が減ってきて貴重だから」と文化の森に持ってきてくれました。文化の森の貴重な自然標本となっています。(左は山之上町で、右は蜂屋町で採集。ともにメス)



タガメ (コオイムシ科)

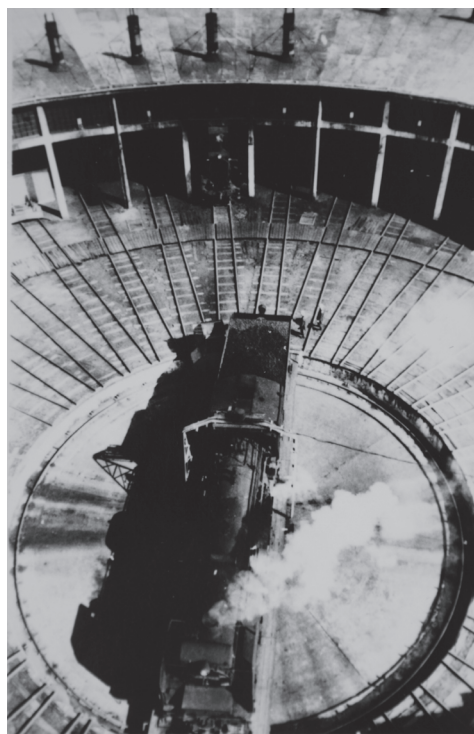
Bunkanomori Special exhibition !

「鉄道のまち」展 ～美濃太田駅開業から100 年～

●会 期 12.18 日 - 2022. 3. 6 日

●会 場 企画展示室 美術工芸展示室
●観覧料 無料

観覧無料



美濃太田機関区 扇形車庫 昭和44年

東海道線が明治 22 年に全通し、軍事的な目的も含めた国の基盤整備という観点で東海と北陸を結ぶ鉄道は国も注目をし始めていました。明治の終わり頃、飛騨縦貫鉄道期成同盟会の組織が立ち上がり国へ意見書を提出してから、建設への動きが活発化し、大正 7 (1918) 年にその事業化が決定しました。岐阜から美濃太田までが大正 10 (1921) 年に開通、それに伴って美濃太田駅が開業しました。今から 100 年前のことです。さらに翌年には下麻生まで延伸し古井駅も設置されます。高山線全線開通は昭和 9 (1934) 年のことです。美濃太田駅は、太多線 (昭和 3 年)、越美南線 (昭和 9 年・現在の長良川鉄道) が乗り入れる、まさに東海地方の交通の要衝です。鉄道の開通は、地域社会に大きな変化をもたらします。外からの観光客や、日々暮らしている地域の人々の活動が活発になり、利用される駅を核として新しく道路が作られ、あわせて商店街が形作られるなど経済が発展していくことになります。

今回の展覧会では、「鉄道のまち」として、どのように鉄道が整備され人々に影響を与えたのか、さらに駅を中心とした町の発展がどのように進んでいったのかを紹介するとともに、今生きる人々の心の中に鉄道や駅が存在がどのようにのこっているのか、その記憶をたどる場にもしたいと考えます。

forum & event

●日時

●会場

●内容

四季を食べる講座
特別講座
「べんとおべんとお～」1 月 15 日 (土)
10:00-11:30生活体験館
「まゆの家」

向龍館の釜飯 (駅弁) をキノコや筍を使って再現します。作った釜飯は各自お持ち帰りいただきます。

■ 定員: 10 名 ■ 参加料: 800 円

■ 講師: 美濃加茂伝承料理の会

■ 持ち物: エプロン・三角巾・マスク着用

要 事前申し込み 12 月 4 日 (土) ～ 12 月 18 日 (土) *応募者多数の場合は抽選

「シゴハチ (蒸気機関車
C58 280) を見に行こう」2 月 20 日 (日)
①14:00 ～
②15:00 ～美濃加茂市立
古井小学校
(現地集合)

蒸気機関車を見ながら、保存会の皆さんに SL についてお話いただきます。

■ 定員: 各 10 名 ■ 参加料: 無料

■ 講師: 古井小学校 SL 保存会

要 事前申し込み 1 月 4 日 (火) ～ 1 月 18 日 (火) *応募者多数の場合は抽選

イベント

minokamo city museum



●日時	●名称	●内容	●会場	●参加料	●定員
～ 3/13(日)	ていねいな暮らしと道具展	暮らしの移り変わりや暮らしぶりを知り、忘れてはならないものを次の世代に伝えていける機会となれば幸いです。	民具展示館	無料	—
1/15(土) 14:00-15:00	第213回 森の朗読会	市民による朗読です。 作品 『猫年の女房』『亡母の憶い出』 沢村貞子 / 作 『正月四日の客』 池波正太郎 / 作	緑のホール	無料	60名
2/19(土) 14:00-15:00	第214回 森の朗読会	市民による朗読です。 作品：『ザクロの木の下で』 柏葉幸子 / 作 『民子』 浅田次郎 / 作 『結婚記念日』 井上 靖 / 作	緑のホール	無料	60名
3/12(土) 14:00-15:00	第215回 森の朗読会	市民による朗読です。 作品：『はじめに一雲のピアノ』 『海のピアノ 黒ねこモンジロウの話』 あまんきみこ / 作 『パズルのかけら』 内海隆一郎 / 作	緑のホール	無料	60名

アートな 1 日講座



●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
1/23(日) 13:00-16:00	まねきねこに絵付け	張り子のまねきねこにアクリル絵の具で自由に色塗りを楽しみましょう。 持ち物：エプロン、タオル	要 事前申し込み 【12/7(火)～12/26(日)】	工芸室	700円	15名
2/13(日) ①13:00-14:30 ②15:00-16:30	陶 芸	手びねりの技法、またはろくろで簡単な器を作ります。出来上がった作品は、後日お渡しします。(送付の場合有料) 持ち物：エプロン、タオル	要 事前申し込み 【1/4(火)～1/23(日)】 申込の際は希望時間をご記入下さい。	陶芸室	1,000円	各8名
3/6(日) 13:00-16:30	スワロフスキーのキーホルダー	スワロフスキーをつかってキーホルダーを作ります。(制作は30分程度) 持ち物：拡大鏡	要 事前申し込み 【1/25(火)～2/13(日)】	工芸室	2,000円	8名

ていねいな暮らし講座

●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
3/10(木) 9:30-12:00	春を染める	春の草木で絹布を染めます。 持ち物：エプロン	要 事前申し込み 【1/20(木)～2/10(木)】	まゆの家 (生活体験館)	1,000円 程度	15名

まゆの家
年中行事

門松立て

～1/6(木)

かつてこのあたりでみられた簡素な門松を玄関先に立てます。

自由
観覧

ひなかざり

2/5(土)～4/3(日)

ひな人形、武者人形、動物など土びなを飾ります。



土びな

事前申し込みについて

電話、FAX による受付は行いません。右記のいずれかの方法でお申し込みください。

■文化の森ホームページ講座専用申込フォーム
こちらのQRコードからお申し込みできます。→

■はがき（住所、氏名、電話番号、希望講座を記入）

■ご来館

※応募者多数の場合は抽選となります。抽選結果は郵送にてお知らせいたします。



講座にお申し込みいただいた個人情報、以下の項目のみに使用します。
1. お申し込みに関する問合せ
2. 講座開催に関する連絡
3. 抽選結果の通知

「阿曾藍人 Inner Land 内なる大地へ」制作レポート

今年 10 月、当館では美術家の阿曾藍人さんの展示を開催しました。阿曾さんは近年、常滑や多治見などの陶都を経て美濃加茂に移住しました。扱う素材は土、ほとんどがやきものです。土は原始的な素材ですが、阿曾さんは球や正方形などシンプルな形を複数作り、それらを並べて洗練された空間芸術を発表してきました。

展覧会に向けて構想を具体化する中で、阿曾さんから森に土の玉を置き、展示室に新作の土の柱と球を並べて森と室内に相似関係を作るという提案を頂きました。そこで、森に土の玉を展示して撮影した写真をチラシ等を使うことにしました。土の玉は重いので、最後は阿曾さんが転がして位置を決めます(1)。完全な球形は自然環境下では異質です。しかし時間がたつほど、作品は不思議とその場に馴染みました。実はこの作品、森に置く想定で作ったものだそうです。それが初めて叶ったと阿曾さんは教えてくれました。

新作の土の柱に使う陶板と球は、文化の森の陶芸窯で焼成しました。焼成した玉は、芝生で冷めます(2)。柱用の板は薄く、乾燥中に割れたものもありましたが、破片まで丁寧に窯入れしました(3)。

最初、開会は 9 月 25 日の予定でしたが、感染症の拡大を受け 9 月末まで休館が決定します。そこで会期を後にずらして 10 月 1 日の開館を目指し、展示作業を始めました。9 月 18 日、作品搬入。最初に、柱と球の展示(4)から始めました。床と天井に着くか着かないかの微妙な高さ調整を工夫しました。次に《Light Field》の展示です。薄い陶板は割れやすく、緊張感のある緻密な作業の後、ようやく暗闇に浮かぶ光の風景が広がりました(5)。全長 10m の大作は家で広げられず、展示室で初めて全体を見たのだそうです。展示後、阿曾さんは穏やかな表情で、その光景を見つめていました。

常滑、美濃、新潟県十日町の土を使った陶板の作品(6)を飾り終え、阿曾さんは最後に柱と球の空間の出口扉を開けると決めました。閉じないほうが「呼吸できる」と阿曾さんは言います。実は他にも可動壁が直角に接する部分は隙間ができるよう、阿曾さんは壁を配置していました。その言葉に、土の玉が森に馴染んでいった撮影の時を思い出しました。作品の息使いを感じられるような空間づくりー阿曾さんの表現の真髄に触れたと感じました。

会期中、阿曾さんの工房見学とワークショップを開催しました。工房(7)では作品の窯出しを見せて頂きました。まだ熱い土器を窯から出して、木くずに投入すると炎が上がります(8)。最後に、展示に使った陶板や土の玉の作り方の秘密も教えてもらいました。ワークショップでは、まゆの家の庭に作ったレンガ積み窯で文化の森で採れる赤土を使った陶板を焼きました。蛙目粘土と水を加えて練り粘土にし、石膏板に薄く伸ばして乾燥させ、焼成しました(9)。まだ熱い陶板に植物を押し付けると燃えて、炭素になります(10)。1枚1枚の完成を楽しみながら待つ、和やかな雰囲気包まれました。

10 月 31 日、最終日に行ったトークには、地元だけでなく遠方のお客様も来館されました。17 時、展覧会は終了しました(11)。(Y.W)



展覧会チラシ



(1) 撮影の準備



(4) Inner Forest



(7) 阿曾さんの工房



(8) 炎と煙が上がる様子



(11) 最終日の閉幕後 展示室入口で



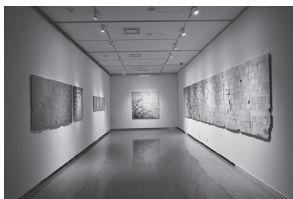
(2) 芝生の緑に映える土の玉



(3) 柱用の陶板を窯に入れます



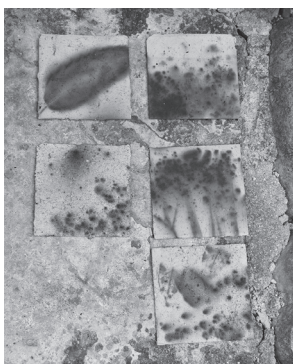
(5) Light Field



(6) 左：新潟 右：常滑 中央：美濃の土



(9) ワークショップ 焼成待ちの様子



(10) 焼きあがった陶板作品

※イベントや講座について、今後の予定や定員が変更になる場合がありますので、電話でお問い合わせいただくか、文化の森ホームページでご確認ください。
※施設を利用される方は、手指消毒、マスク着用をお願いします。

地域・防災情報室

みのかも文化の森の2階の「情報学習室」が市の防災拠点施設になることとともなって、地域と防災の情報をお伝えするスペースに生まれ変わりました。(入場無料)

2021年11月
オープン



逍遙こみち

みのかも文化の森の広い敷地内は、里山の自然がひろがり、古代からの史跡や現代彫刻のアートのスポットも多くあります。坪内逍遙の名のように、気ままに森の中のそぞろ歩きをお楽しみください。そのスタート地点として各スポットやコースの情報をお知らせします。(なお、コースは現在整備中です。)



バス停からの 小さな旅

ふだんは何気なく通り過ぎてしまっている場所も、ちょっと足を止めて見てみると、気がつかなかったものや景色などに会えることがあります。「あい愛バス」のバス停で降り、少し歩いて、ちょっとした旅気分を楽しみませんか。2019年から「広報みのかも」に掲載中の旅をまとめて紹介。

このまちを歩く

展示①
地域

美濃加茂市のあちこちには、身近にありながら、あまり知られていない場所がたくさんあります。そこには、奥深い歴史や人々の思い、自然の不思議さなどが潜んでいます。ここでは、そんな足元を知る楽しさ、このまち再発見の歩き方を紹介します。

実際に足をはこんでみてください。思いがけないものに出会えるかもしれません。みなさんにとって、まちの魅力や良さを感じる時間となることを願っています。

展示品の「現地」へいざなう1階の常設展示室の「イッテミテ」と同じようにお楽しみください。

交通のうつりかわり



美濃加茂地域は、かつては中山道や木曽川を通じて人やモノの交流がさかんで、今も多くの道路や鉄道が交差する交通の要です。

学校や公共施設

美濃加茂市は1954(昭和29)年に合併して今の姿になりました。これまでのまちの変遷と、学校や公共の施設の歴史を振り返ります。



道具のうつりかわり と今

昭和30年代から40年代の高度成長時代をへて人々の生活は大きくかわり便利にもなりました。そのうつりかわりとともに、大切にしたい暮らしの知恵についても考えます。



土地とくらし



美濃加茂市内の地形は山地や河川など変化に富み、人々もその場所を生かし多様な暮らしをいとなんでいます。豊かな自然とともに暮らしてきたその様子を紹介します。



みのかも文化の森の2階の「情報学習室」が市の防災拠点施設になることにもなって、地域と防災の情報をお伝えするスペースに生まれ変わりました。(入場無料)

地域・防災情報室

2021年11月
オープン

浸水の範囲



ボートで避難

9.28災害

昭和58年(1983)9月28日、台風10号のもたらした大雨により、木曽川が氾濫し濁流が美濃加茂市の中心街を飲み込みました。深いところでは2階の屋根裏まで水位が達し、床上床下浸水家屋は1676戸に上りました。不幸にも1名が逃げ遅れ、唯一の死者となりました。災害をきっかけに木曽川の築堤工事が実施され、防災行政無線も備えられました。



8.17災害

昭和43年(1968)8月16日から17日未明の豪雨で、三和町川浦地区を中心に、伊深・蜂屋・山之上などの山間部で山崩れや河川の氾濫がおり、7名の犠牲者が出ました。

展示② 防災

もしものための 「いつも」

美濃加茂地域においては、南西部の木曽川と飛騨川、北東部の長良川支流とそこに流れ込む河川は日頃の暮らしの基盤であり、交通や観光など産業面でも大きな役割を果たしてきています。

しかし、これまでの歴史をひも解くと、まさにここに住む人々は水害とともに生きてきたことがわかります。この展示では、数知れず襲った災害と人々の関わり歴史とともに、ここが災害に直面しなければならない地域であるという現実を伝えます。

そして「もしも」の災害に日頃からどのような心がけをしたらよいか、そんな「いつも」を考える場にしたいと思います。

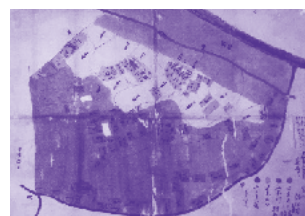
伊勢湾台風

山之上町の被害



昭和34年(1959)9月26日、和歌山県に上陸し中部地方を縦断した台風は名古屋市南部の高潮など各地に大きな被害を与えました。このあたりでは、暴風が吹き荒れ、多くの家屋が倒壊しました。

浸水の古絵図



江戸時代には木曽川の氾濫は毎年のように起こりました。低地の深田村では、浸水したことを示す貴重な絵図が残されています。



8.17 災害記念碑

災害から学ぶこと

市内の各所には災害があったしるしとして「災害記念碑」や浸水位表示板などが建てられ今後の災害の可能性を伝えていきます。日常の延長線に災害があるのだという意識を常に持たたいものです。

地域の防災の 取り組み

「ハザードマップ」「避難所情報」など様々な防災情報をお知らせし、あわせて地域を守る「消防団活動」についても紹介します。

